

厚岸大橋完成までの歩み

出典：厚岸町史下巻ほか



▲厚岸大橋鳥瞰図



▲丸木舟(板綴橋)
【海事記念館展示】

▼ 湖南・湖北地区の往来は、アイヌ民族が丸木舟で往来したのが始まりとされている

▼ 太田紋助が渡守をしていたという記録があり、これが渡船に関する最古の記録

▼ 当時の本町・真竜に栈橋(さんばし)が完成。個人経営から町営の渡船を始める

▼ 各方面関係官庁等に対し、陳情や請願を行う

▼ 厚岸架橋促進期成会が厚岸町有志により設立され、随時運動が展開される

▼ 町民の長い間の懇請と架橋の必要性が認められ、北海道において海底地質調査を行ったが、地盤軟弱と巨額の工事費を要するため中止となる

▼ 架橋中止の代替として、日本道路公団経営による北海道初のフェリーポート『厚岸丸』が就航する

▼ 『厚岸大橋架橋促進期成会』の設立総会が開催。会長には厚岸町長の斉藤信男、副会長には浜中町長の鳥居巳三・厚岸町議会議長の村上忠次・厚岸町商工会長の徳田外征雄が就任

▼ 厚岸大橋架橋促進期成会の北海道に対する陳述運動により、『厚岸大橋』の実現が当時の町村知事、三枝副知事により確約される

▼ 架橋ルート周辺の海底、陸上爆破による地盤調査を実施する

▼ 厚岸大橋の海底地盤調査のためヤグラ方式によるボーリング工事を実施する

▼ ボーリング工事を実施(海上2本、陸上1本)

▼ 厚岸大橋早期実現陳情団(期成会長ほか10人)が東京へ。開発庁、建設省、大蔵省へ陳情

▼ 厚岸大橋の架橋が閣議で決定する

▼ 厚岸大橋架橋ルートが決定。橋梁タイプは『ゲルバー型式連続ワーレントラス橋』と決定

▼ 厚岸大橋架橋ルート上において、ボーリング工事を行う

▼ 厚岸大橋架橋試験工事、修祓式と起工式を行う

▼ 厚岸大橋架橋本工事、修祓式と起工式を、町村知事はじめ国會議員、北海道議會議員多数参加のもと盛大に行う

▼ 宿願であった厚岸大橋が完成。町内が歓喜にあふれる



▲渡船『ちどり丸』



▲厚岸フェリー通行券



▲フェリーボート『厚岸丸』

▲厚岸フェリー時刻表

フェリー時刻表	
往	来
6:10	5:30
7:10	6:30
8:10	7:30
9:10	8:30
10:10	9:30
11:10	10:30
12:10	11:30
13:10	12:30
14:10	13:30
15:10	14:30
16:10	15:30
17:10	16:30
18:10	17:30
19:10	18:30
20:10	19:30
21:10	20:30
22:10	21:30



▲着工を満艦飾で祝う海上パレード



▲知事に架橋を陳情する町民



▲厚岸大橋橋桁工事



▲厚岸大橋渡り初め(親子3代関係者ほか)